

1. 地 勢

本県は、本州中央部の東端に位して、下総上総、安房の三国を管轄する。

その地勢は東西に狭く、南北に長く、遠く外海に突出し、半島状をなしており、東及び南は太平洋に面し、西は一部東京湾にのぞみ、他は江戸川をへだて、東京都及び埼玉県に接し、北は利根川を界して茨城県につらなつてゐる。これを一〇市、十二郡二八四町村に分割し、その面積は五、〇三二一六平方秆余で、四六都道府県のうちの第二八番目にあたる。これを経緯度によつてみれば、西は東経一三九度四五分より東の一四〇度五三分に亘る東西凡そ九六秆、南は北緯三四度五分より三六度六分に亘る南北凡そ一二六秆に及んでいる。県庁所在地たる千葉市は東経一四〇度七分、北緯三五度六分の地点にあり、県央よりやや北にある。

地勢は安房、上総の二国は概して山地多く、特に房総の国境には鋸、富、伊予、高塚、愛宕、清澄、鹿野、鬼沼等の高峰峻嶺は数里に亘り相連らなつてゐる。又平久里、三島、加茂、夷隅、小櫃、小糸、湊、一宮、養老等の諸川は、山岳起伏する間を縫い、東京湾及び太平洋に注いで大いに灌漑の便を助け地味は肥沃である。北総地帯はおゝむね平地で西部は一帶に沃田広野が連らなり印旛、手賀、栗山鹿島等の沼川が散在し、東南は平地の間に多少の丘陵の起伏をみられ、利根、江戸の両河川は東北西の三面を囲み、茨城、埼玉の二県及び東京都との境界をなしている。なお海岸線の長さは三六三秆余にわたり、房総の海浜は屈曲多く大小の島がその間に点在して天然の景勝に富み、港湾漁場は至る所にみられ、しかも暖流は近海を洗い、漁族の群衆が絶えない。

気候は四周、海及び川に囲まれ南東は太平洋に臨み北及び西の一部は川をへだて、平野に接し、県内土地おゝむね平であるが房総の境は峰巒相連なり、気候は海洋、内陸性等さまごまな状態を来し、おゝむね温和である。すなわち銚子より房州の外海に至る海岸地方は暖流の影響を受け年平均温度は摂氏一五度内外を示し、夏冬の差少く極暑の時でも摂氏三〇度以上に上ることは少い。また安房、館山地方より東京湾の西海岸に至る内湾地方は同じ海岸地方でも趣を異にし気候は海洋性に似てやや内陸性気候を帯び温度は外洋に比べ寒暑共にやや強く雨量は少く風も弱いが天気は晴天が多い。これと異り北総地方は土地おゝむね平であるけれども沼地多く、後方は関東平野に接するから内陸性の気候に支配されるが陸地の特性として昼夜の差が多く又寒暖の較差も大である。